

中区地域福祉保健計画 第4地区南部

目指すまちの姿

声がかけあえるまち
第4地区南部

- 本郷町
- 本牧町
- 本牧満坂
- 本牧荒井の一部



1: もっと地域と活動を知って、 参加してもらって、 地域のつながりを作ります。

- マリンFMやSNSなど様々な情報媒体を活用し、歴史、文化、名所、伝統、豊かな自然などたくさんの魅力や地域情報を伝えていきます。
- 地域活動の担い手が減っている中で、負担感なく活動できるよう、方法を工夫して、交流する機会を持ち続けていきます。
- 活動している団体同士が連携し、お互いの利点をいかした活動をしていきます。
- こどもの活躍が見られる機会をつくり、若い世代も地域に関心をもてるようにします。



2: 誰もが声をかけ合えるまちにしていきます。

- 住民や地元企業を対象に認知症の理解を深めてもらい、認知症になっても暮らしやすいまちにしていきます。
- より身近な範囲での住民同士のつながりづくりを目指し、サロン等を行います。
- 企業と住民が連携し、ゆるやかに見守る地域づくりに取り組みます。
- 防災訓練やイベント等に障害のある方や外国人などいろいろな人が参加できるよう声をかけます。
- 身近な生活環境を良くするよう声をかけあって考えていきます。



3: 一人一人が自分に合った 健康づくり・つながりづくりを進めます。

- 多世代が参加できるふれあいウォークや大運動会等で、健康づくりを進めます。
- 日ごろからウォーキングやラジオ体操等、身近な場所で、誰もが健康づくり・つながりづくりに参加できる機会をつくります。



これまでの計画(第4期計画)の振り返り

こどもから高齢者まで幅広い世代が参加するイベントを通して、多世代のつながりが深まりました。横浜マリンFMやSNSなどの様々なツール、ミニサロンや食事会の集まりの場を通して必要な情報を必要な人に提供することができました。より身近な範囲で、地域に密着したミニサロンや健康教室、防災の取組が進み、近隣住民のつながりが深まりました。4期ではコロナ禍も経験しましたが、できるだけイベント・行事を再開し、つながりをもてるようにしてきました。



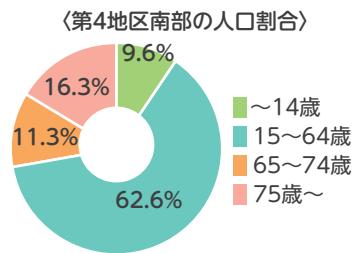
第4地区南部はこんなまち!

開港前からの歴史と戦後のアメリカ文化の影響を受けた独特の本牧文化が形成されています。旧路面電車の通っていた本牧通りには現在では市営バスが頻繁に通り、住民の主要な交通機関となっています。また、急な坂や階段の多い住宅地と平地の商店街エリアからなり、住民が住んでいる場所の大半は丘陵地となっており、移動に課題が生じることもあります。住民同士のきずなは深く、地域でのお祭りやイベントが盛んに行われています。

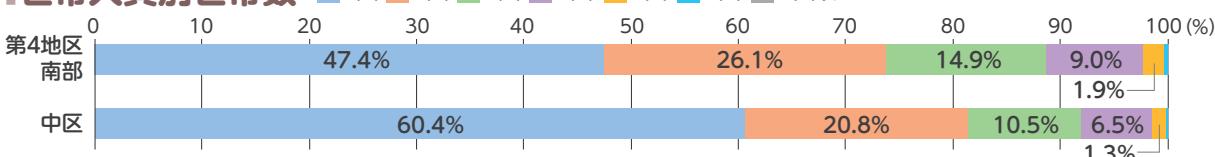
第4地区南部の統計データ

人口

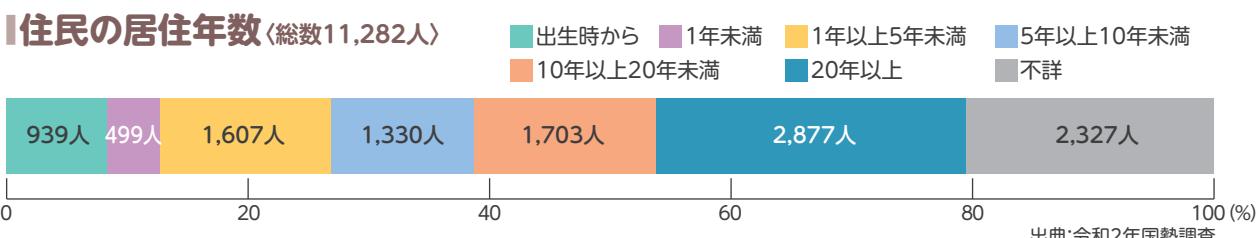
	合計	~14歳	15~64歳	65~74歳	75歳~
第4地区 南部	11,250人	1,085人	7,045人	1,281人	1,839人
	100.0%	9.6%	62.6%	11.3%	16.3%
中区	155,313人	14,103人	104,356人	16,773人	20,081人
	100.0%	9.0%	67.1%	10.8%	12.9%



世帯人員別世帯数



住民の居住年数



出典:令和2年国勢調査

人口の約3割が高齢者であり、中区の平均と比較してもやや高い割合となっています。世帯人員は半数以上が2人暮らし以上となっており、中区の平均と比較すると割合が高く、複数人世帯が多いことがわかります。

住民の居住年数を見ると、20年以上という割合が高く、長くこの地区に住み続けている住民が多いことがわかります。

出典記載のないものは「横浜市統計情報ポータル」(令和7年3月現在)より引用しています。

第5期計画はこのように作りました

「本牧4南元気なまち運営員会」でグループワークやアンケートを実施し、地域活動を振り返りました。

